

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/01 ～2019/09/30)



中央ヨーロッパにあるチェコのオストラヴァ大学に
 今月から留学しています。去年協定が結ばれた大学の
 ため、千葉大学からは初の派遣留学生です。報告書を
 通じてできるだけこの大学の様子を伝えることがで
 ければと思います。

1. 勉学の状況

・サマースクール

学期が始まる前の8/26から9/13までの三週間チェコ語のサマースクールに参加してしまし
 た。サマースクールの参加者は私以外ドイツ人だったので初めは少し不安でしたが、私がいる場
 では私が会話に入っていないなくても英語で話してくれる本当に優しいクラスメイトに恵まれました。
 7人という少人数で授業を受けることができる上に、レベルの違いから二つのクラスに分け
 てもらうことになり、4人という少人数で授業を受けることができ、とても良い環境だったと思
 います。授業自体は午前中がチェコ語の授業で午後はチェコの映画鑑賞や歴史や重要人物につい
 てのレクチャーがありました。チェコ語自体は日本でほとんど勉強していなかったため難しかつ
 たですが、良い先生にも恵まれ楽しく有意義な三週間を過ごすことができました。

・授業

1 週間の welcome week を終え、9/23 から新学期が始まりました。オストラヴァ大学は二週目の終わりまでは授業の変更が可能なので初めの週は興味がある授業には積極的に行くようにしました。偶然私が取りたい授業が火水木だったため、月曜日と金曜日は授業がありません。大学は千葉大学のようにキャンパスがあるのではなく、街中に学部ごとにバラバラに建物があるタイプです。学生数は少ないのでどの授業も少人数で先生との距離が近いことが魅力だと思います。

私の所属は Faculty of Science の Department of human geography and regional development です。初めは science という名前だけで判断し詳しく見ていなかったのですが、授業を調べて行くうちに一番自分に適していた学部でした。履修予定の授業は“Humanitarian Aid and Development cooperation”, “English for Erasmus students”, “Development and transition in ASEAN”, “Local and Regional development”, “China vs Europe”です。

“Humanitarian Aid and Development cooperation”の授業は、学部生だけでなく Master の生徒も取ることができる授業のため不安です。毎週の課題は課された Reading を読み、半ページ要約、半ページ自分のアイデアを書くというものです。授業では主に Reading についてレクチャーとディスカッションを行います。私の学科にはアジアからの留学生はいないのでほとんどがヨーロッパからの留学生かチェコの学生です。また母国の大学でも political geography を

専攻していた生徒も多いので自分の知識の無さが不安ですが頑張ろうと思います。学期末にはそれぞれ自分のテーマについて20分間のプレゼンを行う予定です。

“Local and regional development”の授業もマスターの学生もいるのでレベルは高いです。授業の内容は開発についてで、評価方法はプレゼンとそのプレゼンに関する内容のレポート5ページと最終試験です。自然地理、政治、経済、文化、環境など開発を考える上で必要になる要素についての観点やオストラヴァの地域開発についても扱っていてとても関心があるので履修しました。

学部の所属が“geography”に関するものなので、地理的視点から考えることが多く、とても面白い授業ばかりです。Geography といっても political, economical, human, cultural など様々な側面が関係しているため様々な知識が必要となり、特に政治に関しては知識不足も感じます。しかし自分の関心がある授業を履修できたので、あとは頑張ろうと思います。

次回の報告書が今学期が終わった後なので無事に最終課題を乗り越えていることを祈ります、

・その他

チェコ語のサマースクールでお世話になった先生と一緒にチェコ語を習っていた中国人の教授と私だけのために個別でチェコ語を教えてくれることになりました。授業としてのチェコ語は履修する気は無かったのですが、この環境なら学びたいと思い少しでもチェコ語を学ぼうと思います。サマースクールが終わってからも声をかけてくれたり、会った時にはチェコのことヨーロッパ

パのこと旅行のことなどいつも話題が尽きないのでとても楽しいし勉強にもなっています。まだ一ヶ月ほどしか経っていませんが、人との繋がり大切さを実感しています。

2. 生活の状況

オストラヴァに到着してからは ESN という学生団体の人がバディとなってサポートしてくれます。私の場合はサマースクールに参加したので他の学生よりも到着が早いため決まっていたバディとは違う人が駅に迎えに来てくれて寮まで車で送ってくれ設備を説明してくれるなどとても親切なサポートをしてくれました。

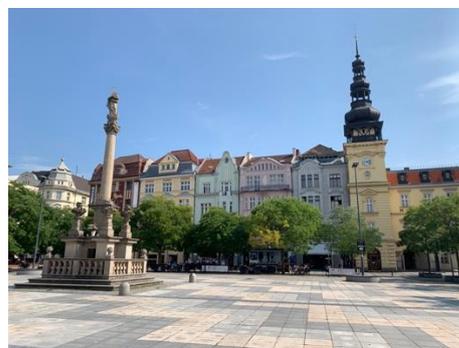
私が住む寮は大学の寮でとても設備がいいとは言えませんが、生活するうちに慣れてしまいました。家賃がすごく安いので仕方ないかなとも思います。ほとんどの留学生がここで生活しています。一番大変なことは寮の受付や責任者の人がチェコ語しか話せないことです。でも、なんとか伝えたり、チェコ語を話せる通りかかった人に助けをもらうなどして生活できています。

サマースクールの期間は同じ参加者のドイツ人とルームシェアしていました。授業後は時間に余裕があったため、レンタルサイクルで川沿いを走ったりオーケストラを見に行ったり、カフェに行くなどドイツの友達ととても充実した夕方を過ごしていました。

サマースクールが終わってからは 2 人部屋を希望していたのですがなぜか 3 人部屋になってしまいました。でもよくあるみたいです。トラブルを少なくするつもりなのか、部屋も同じ国の人同士になることが多く私のルームメイトは 2 人とも日本人です。せっかくなら違う国の人が

良かったなとも思いましたが、結局そのままにすることにしました。部屋は完全な 3 人部屋でただベットと机、クローゼット、冷蔵庫があるだけで個別のスペースはありません。シャワートイレキッチンフロアでシェアなので、かなり大人数で使うことになり、いつもキッチンやシャワーは混雑しています。日本人は私を含めて 5 人、その他韓国人が 15 人近くいる気がします。夕食は自炊することが多くキッチンではいつもそのフロアの人と会うので韓国、台湾、アメリカなどからの留学生と友達になることができました。寮の設備に関してはトラブルが多々ありますが、問題なく生活できています。

・オストラヴァについて



オストラヴァはプラハから電車で 3 時間のポーランドの国境近くにあります。チェコにおいて第三の都市ですが、観光地ではないため町では英語を話せる人はあまりいません。アジア人も留学生以外ではほとんど見かけません。街の印象は小さくて可愛い町です。少し離れたところには大きなショッピングモールもあり、買い物にも困らないためとてもいい環境だと思います。オーストリアのウィーンやポーランドのクラクフにも電車やバスで 2、3 時間で行くことができます。

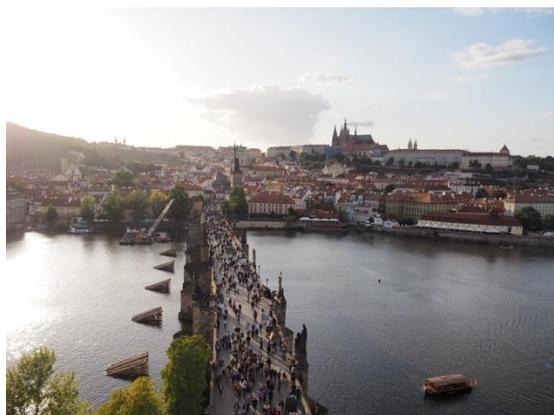
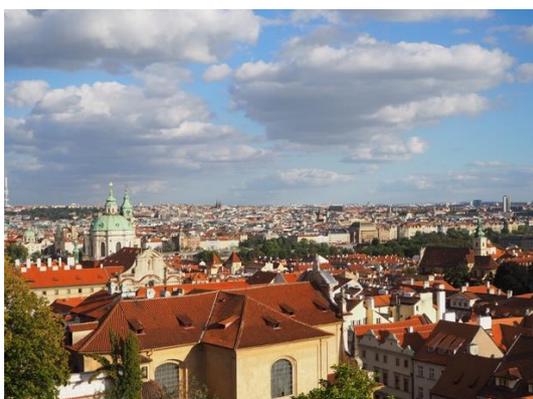
チェコ国内の鉄道であれば学生は 75%オフなのでプラハまでは 400 円ほどしかかかりません。そのほかオーケストラも 80%オフなどかなり学生は優遇されています。チェコは一人当たりビール消費量世界一ということもあり、オストラヴァにもパブが立ち並ぶ有名な通りがあります。お昼や夕方から多くのチェコ人がビールを飲んでいるのを見かけます。チェコは物価も安く、さらにオストラヴァはプラハよりも安いので交通費や生活費はそこまで負担にはなっていません。オストラヴァには現在は使われていない製鉄工場を改修し、ライブ会場やタワー、カフェなどに使えるように観光地化したユニークな産業遺産があります。見た目は古い工場ですが、様々なイベントやチェコ最大級の音楽フェスも行われるなどオストラヴァのメインスポットとなっています。

・休日

月曜と金曜は授業がなく毎週 4 連休となるため、よく他の都市や国に出かけています。チェコはヨーロッパの中心ということもあり動きやすいです。また電車やバスもチェコ周辺は比較的安いと思います。日本からは遠いヨーロッパだからこそ、この留学期間に様々な国に行こうと思っています。今回がヨーロッパに行くのが初めてだったので“ヨーロッパの街並み”はどれも同じだと思っていたのですが、行く国や都市によって異なることが多く実際に行ってみて違いに気づくことはとても面白いです。今月はチェコのプラハ、チェスキークルムロフ、ブルノ、オロモウツ、ポ

ーランドのクラクフとアウシュビッツ、ドイツのミュンヘンとライプツィヒ、ベルギーのブリュッセル、アントワープに行ってきました。実際に行くことで世界史で習った事を思い出したり、新たに知ることも多くとても良い経験になっています。

写真はプラハの写真です。プラハ城からの景色と有名なカレル橋です。



到着した時には知っている人もいなくて全てが初めてのことで少しは不安もありましたが、新しい場所で様々な人に出会い、いつも新しい発見がある今の環境をとっても楽しんでます。授業スタイルも生活スタイルも日本とは異なりますが、この貴重な経験を毎日大切にしたいと思います。多くの人に出会い、人との繋がりを大切にしたいです。まだ始まったばかりですが、この留学を実現することができて本当に良かったと思っています。留学を後押ししてくださった先生方、友人、家族に本当に感謝しています。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/01 ～2020/01/31)

1. 勉学の状況

前期 winter semester では5つの授業を取りました。日本の授業とは違い一つの授業の内容が多いため、1semester に4-6個ぐらいの授業を取るのが標準だと思います。

私が履修した授業は “Humanitarian Aid and Development cooperation”, “English 5”, “Development and transition in ASEAN”, “Local and regional development”, “China vs Europe” の5つです。授業は英語で開講されているものの中から選びます。チェコ語の授業も開講していますが、ここに留学しにきている人たちはほとんどがチェコ語を話せない人なので英語で開講されている授業から選ぶことになります。学部には所属しますが履修する半分以上の単位を自分の学部からとるという条件を満たせば他の学部の授業も履修することができます。

授業スタイルはどの授業も15人前後で少人数なことが多かったので、Lectureでもただ講義を聞くのではなく生徒に質問したり全体で話し合っ進めていくスタイルが多く、授業の内容に集中できる上に理解しやすかったです。課題は授業によって異なりますが、私が今季行ったのは、毎週次の授業の内容に関連した文献の要約半ページとコメント半ページ、二週間に一度3分程度の短い個人プレゼン、評価につながる最終個人プレゼン3つ、7ページ程度のFinal paper二つ、記述式試験一つとdiscussion形式の試験一つです。慣れない7ページのpaperは苦戦しましたが、書き始める前に教授にアドバイスももらい無事に終えることができました。今季は本当に多くの論文を読んだと思います。

授業内では様々な国からの留学生がいたので、例えば“local and regional development”の授業ではそれぞれの国について質問されることがとても多かったです。特に私の学部ではアジアからの人がほとんどいなくて日本について聞かれることは本当に多かったです。日本の政治、経済、社会保障制度など知らないことばかりで知識不足を痛感しました。この授業はマスターの学生も履修できるレベルが高い授業だったので、専門知識がなかった私には新しいことばかりでしたが、先生も基本についても授業内で扱ってくれて全体を気にしながら授業を進めてくれたのでとても良かったと思います。他の大学の授業はわかりませんが、英語圏に留学している人と比べると、チェコの場合、先生も含めほとんどの生徒が第二言語として英語を使っているので授業はついて行きやすいと思います。どの授業の先生方も親切でわからないことも気軽に質問できたので授業内容には満足しています。

授業は9月の終わりからクリスマス前までで、テスト期間が年明けからでした。私にとっていた授業はほとんどがクリスマス前に終わったので1月は試験一つだけでほとんど休暇でした。2月の二週目から新しいセメスターなので頑張りたいと思います。

2. 生活の状況

ほとんどの留学生がこの同じ寮に住んでいるので寮の中で留学生同士料理を持ち寄って集まったりしています。やはり現地の学生より留学生同士の交流の方が多いです。週末は旅行に行く留学生が多いです。物価が安いこととヨーロッパの中心にあるため位置的にも旅行がしやすいなどの理由で想像以上にみんな旅行に行っています。オストラヴァにあるもう一つのオストラヴァ工科大学の人と交流する機会もあります。10月にはその二つの大学同士のアイスホッケー大会があり、オストラヴァ全体でかなり盛り上がりました。オストラヴァ自体は大きい都市ではないですが、10月にはビールフェスティバル、11月終わりからは中央広場でクリスマスマーケットが行われるなど小さい町ながらイベントが行われました。

私自身も週末に様々な国に旅行に行ったりイベントに参加するなどとても充実した毎日を送ることができました。現地の学生との交流を作るのが難しいのが残念だなと思っていたのですが幸運なことに同じ授業をとっていたチェコの学生と仲良くなることができ、クリスマスにその友達の家を招待してもらえました。クリスマスは家族で過ごす日なので、その場に招待してもらえたのは本当に嬉しかったです。チェコのクリスマスはクリスマスイブ当日肉は食べてはいけなくて、夕食は鯉のフライとポテトサラダがクリスマスイブの食事です。またプレゼントはサンタクロースではなく“baby Jesus”が夕食を食べている間に運んでくれることになっていて、夕食後にみんなですべてプレゼントを開けます。私もその友達の家で伝統的なチェコのクリスマスを経験することができました。またクリスマスのために様々な種類のクッキーやお菓子を作るのも定番で、そのお菓子と一緒にチェコで定番のロシアの古い映画を見ながらクリスマスイブを過ごしました。その日の夜もそのまま泊まらせてもらって本当に貴重な経験ができたなと思います。

旅行でも様々な国に行くことができました。千葉大に短期プログラムできていたスウェーデンの友達や、高校のベトナム研修のバディーだった友達に会いに行くことができ、ヨーロッパで再会できるのがとても嬉しかったです。11月の終わりからは各地でクリスマスマーケットが開催されるため、そのシーズンは多くのクリスマスマーケットを訪れることができました。各地の料理やホットワインなどたくさんの屋台とたくさんの人で賑わい、街全体がクリスマスにデコレーションされてどの都市のクリスマスマーケットも綺麗で本当に最高でした。

サマースクールに参加していた時の縁でその時の教授と今でも仲良くしてもらっていて毎週2回チェコ語を今も習っています。正規の授業ではないのでいつも自分たちのペースで疲れたら早めに終わらせるなど楽しみながらできているので、初めはチェコ語を勉強しようとは思わなかったのですが優しい先生たちのおかげで続けることにしました。レッスン後には家に上がらせてもらって一緒に夕食を食べたり、ただずっと話したり、犬の散歩と一緒にいくなど本当に仲良くさせてもらっています。留学生同士だけでなくこのような交流を持てたことに本当に感謝しています。



アイスホッケー



オストラヴァのクリスマス



ドイツ ドレスデンのクリスマスマーケット



クリスマスイブの夕食



Ostravice オストラヴァを流れる川



寮からの景色

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/02/01 ～2020/05/31)

1. 勉学の状況

2月二週目から後期の Summer Semester が始まりました。後期は4つの授業を履修しました。

ここで大きく問題となり授業にも支障を来したのが新型コロナウイルスの流行です。欧州では2月ごろから感染が徐々に広まっていたのですが、2月は通常に授業を行っていました。しかし3月の二週目になったところで深刻になったため、大学がすべて停止となりました。そのため後期の授業は約1ヶ月は通常に対面で受講し、3週間ほど空白の時間があつたのち、オンラインに全て切り替えられました。私自身も予定より早い3月末の帰国となったため、途中から日本でオンライン授業を受け、単位を取得しました。生活の変化については後ほど述べるためここでは授業の内容とともに、オンラインでの受講について紹介したいと思います。

“Limits of development in China and India”では、中国とインドについて政治、経済、文化、環境など、様々な分野から比較と関係性について講義を受けつつ隔週でグループプレゼンテーションを行いました。オンラインになってからも、ZOOM上で毎週講義を受けプレゼン発表も行っていました。最終課題では中国とインドにおける工業発展と汚染の関係について地理的な視点から分析を行い、健康被害などの側面から発展の限界について述べました。

“Political Geography of Post-soviet area”は、旧ソビエト地域についての講義を受け、指定のトピックから一つ選択し、そのトピックについて調査発表を行うことが最終課題でした。日本ではなかなか意識することのない旧ソビエト地域については事前知識もほとんどない状態でしたが、全ての情報が新鮮でとても興味深いものでした。オンラインになってからは文献からの学習になり、要約とコメントの課題を行っていました。最終課題はオンラインに切り替わった影響からプレゼンではなく最終レポートでの提出となりました。私は、「旧ソビエト地域におけるロシア人マイノリティ」を最終課題として調査を行いました。

“Urban geography”は院生向けの授業でしたが、授業内容に非常に興味を持っていたため、履修させてもらえることになりました。主に授業では Small City や Urban shrinkage に着目し、最終課題では日本における小都市における文化的政策についての最終レポートを執筆しました。この授業もオンラインに切り替わってからは各自の調査を進めていくという形になり、講義は行われませんでした。

“Global Sociology”では貧困、都市空間、社会運動など様々な社会課題について授業でディスカッションを行なったのち、各自の興味に沿ったテーマについて調査を行いました。私は都市環境について歩行者空間の拡大に着目し、最終課題に取り組みました。オンラインになってからは2回ほどビデオ通話での講義とディスカッションを行いました。

学期中の授業形態変更のため、大学側もどうしても準備不足な部分はありましたが、短期間で

代替課題やオンライン授業を受講し、単位習得までできたことは非常に良かったと思います。マイナス面として、最終課題がプレゼンテーションではなく全てレポートの形に変更になったため、各授業に対し約10ページのレポートを日本で一人で部屋に籠って行うのはこの留学期間の中で一番大変だったと感じています。後半は日本での受講となってしまいましたが、教授は最終レポートについてメールで相談に答えてくれたり、日本に帰ってからも気にかけてくれ、スムーズに手続きなどを進めてくださるなど非常に進めやすかったです。

留学全体単位について、国際教養学部では英語科目以外の全ての科目が単位互換することができました。以前より単位互換について認定されやすくなったと感じています。

2. 生活の状況

生活面においても新型コロナウイルスの影響が非常に大きいので主に生活の変化について紹介したいと思います。

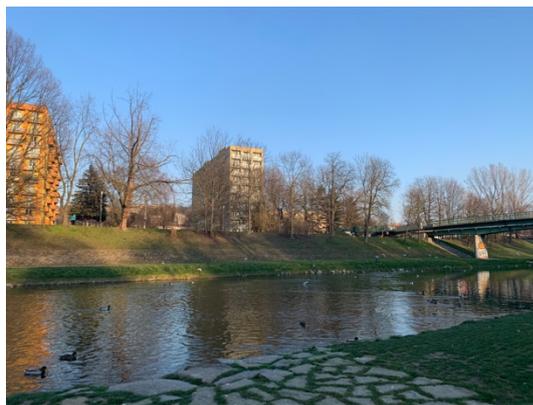
上記でも述べたように欧州では2月ごろから感染が拡大し始めました。2月の中旬は私も旅行に出かけていたのですが、その際空港において予防のためマスクをしていたらその当時はまだ珍しかったため、いろいろな人からの視線を感じました。自分がアジア人であるために余計に注意深く見られていたかもしれません。この頃はまだ中国の印象が強かったため、小さいオストラヴァの町でさえも主にアジア人に対する問題発言を受ける機会が自身を含め、周りのアジア系の友人に多くありました。徐々に深刻になってゆき、ヨーロッパでも感染拡大するとなった際、マスクを購入しようとしたのですが元からマスクをつける習慣がないためにお店にはもちろんなく、3月にはハンドジェルなどの消毒液も全て売り切れていました。チェコの新型コロナウイルス対策はかなり義務的なものであり、徐々に公共交通機関で鼻から口を覆わなかったら罰金、飲食店の全ての停止、商業施設全て停止、スーパーマーケットの入場時間別規制など政府から明確な指示が出されていました。3月中旬からは授業もなく、都市間の移動さえも制限されお店もスーパー以外全て閉まっていたので、友人とただ寮で過ごす生活になりました。街を歩いても全ての店が閉まっており、人も少なく、閑散としさみしい雰囲気でした。することがないため、ただ毎日友人と川まで散歩し、寮で一緒に料理を作り、部屋でダラダラ過ごすことを繰り返していました。当時、日本はまだ深刻ではなかったため、春休みで多くの友人が旅行に行っているのをSNSなどを通じて見て不思議な気持ちになったのを覚えています。

この頃から留学生の間で急に帰国する人が増え始め、毎日のように突然の友人との別れがあり悲しかったです。毎日残っている学生の間でどうするか悩んでいました。そんな中でもいつもよりも友人と過ごす時間が多くなったという点ではよく、ただずっと話しながら川沿いを歩いたり一緒に料理するなど小さな楽しみを見つけて過ごしていた時間も今思えば楽しかったなと思います。結局私自身も帰国することになり、飛行機の欠航が続き大変でしたが、なんとか帰国しました。空港までの電車もいつも観光客で溢れているプラハも空っぽだったのは不思議な感覚でした。3月末の帰国時は、すでに欧州からの帰国者は自主隔離の対象であったため帰国して

からはしばらく自粛生活を送っていました。毎日寮で友人と暮らしていた生活からかけ離れてしまい、この頃が一番悔しく辛かったなと思います。徐々に日本の状況が深刻になる一方欧州が回復しており、現地に残っている友人が出かけられるようになっていたのを見たときは残ればよかったと考えてしまうときも多かったですが、安全を考えての帰国だったのでしょうがなかったなと思います。

このような特殊な状況であったために、お世話になった教授やクラスメイトに全く会えずに帰国となってしまったのが一番残念です。いつかまた戻ってもう一度再会できること、各国の友人に会いに行けるようになることを願っています。

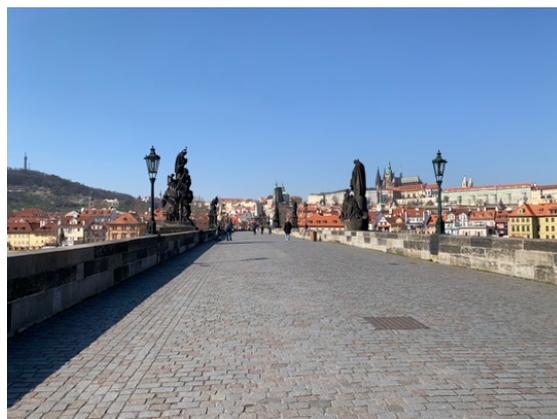
留学全体を振り返ると、授業での学びもちろんありますが、日常生活において非常に多くの人に出会い、その関わりの中から学ぶことが非常に多かったなと感じています。留学生同士の交流からは非常に多くの国についての知識や価値観の違い、仲良くなるからこそ知れたことが本当にたくさんあったと感じます。また、家によく呼んでもらえるほど仲良くなれた教授とは、教授だからこそわかるチェコについての話や、国際関係、政治経済状況などの話についても日常生活の中で話す機会が多く、そう言った会話の中で学ぶことは多く、ほかの留学生にはない経験であり大切にすべき出会いだなと感じています。後半は状況の変化により想定外の事態とはなってしまいましたが、全体を振り返り、非常に充実していた留学生活であったと思います。帰国後も友人や教授と連絡を取り合うことも多いため、留学中で築いた関係性を今後も大切にしていきたいと思います。今後は留学生活を通して得た、学びを生かしていくとともに、留学に限らず新たな経験に積極的に挑戦し、様々な人との関わりから自己成長につなげていきたいと思います。



オストラヴァの景色



寮からの景色



帰国前のプラハカレル橋



学部棟前



ポーランドでスノーボーディング



寮での友人との料理

